

(件名) 地域住民・近隣3大学・地元起業家・瀬戸市が連携し、
菱野団地再生計画に基づく活動拠点整備事業を実施します。

菱野団地のまちづくりを推進するため、地域住民・近隣3大学・地元起業家・瀬戸市都市計画課が連携しながら、活動拠点整備を進めています。これから実施するDIY企画について、取材にお越しくさせていただきますようお願いいたします。

1.事業の経緯

令和2年度、地域住民の活動拠点を整備するため、機能や役割・デザインなどを検討する住民ワークショップを開催しました。

それを受け、令和3年4月、谷田 真准教授（名城大学）が、所属学生とともに空間イメージのデザインコンセプトを制作しました。

そして、コンセプトに基づいた家具のアイデア提案や家具製作をすることとし、以下3大学の5つの研究室で取り組むこととなりました。

- ・名城大学 谷田 真 准教授
- ・名城大学 鈴木 温 教授
- ・南山大学 石川 良文 教授
- ・愛知工業大学 野澤 英希 准教授
- ・愛知工業大学 益尾 孝祐 講師

令和3年8月、地域住民と学生が、家具のアイデアを検討するためのグループワークを行いました。

2.これから実施する事業について

地元起業家の南 慎太郎氏（「ゲストハウスますきち」）がアドバイザーとなり、地域住民と学生が力を合わせ、DIYによって家具を制作します。

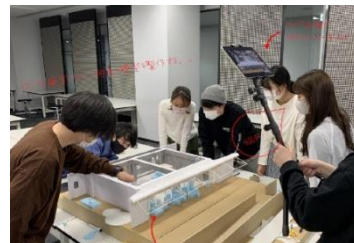
■DIY1回目

日時 10月9日（土）13時～16時

場所 菱野団地活動拠点（瀬戸市菱野台1丁目4）約140㎡

※2回目・3回目については別紙参照。

※一般の方の参加は受け付けていません。



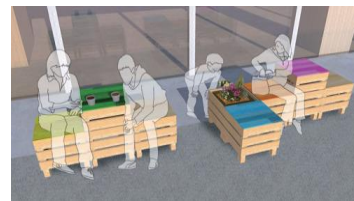
デザインコンセプト制作



学生による家具のアイデア提案の一例



住民と学生のグループワーク



DIYによって制作する家具の一例

資料の公表日	令和3年10月4日（月）	添付資料 <input checked="" type="checkbox"/> 有・無
【事業内容について】 担当者 問い合わせ先	瀬戸市 都市計画課 計画係 主事 牧・係長 井上 0561-88-2680 tokei@city.seto.lg.jp	※別紙P1～3 に経緯の詳細、 P4に今後の事業 の詳細を記載
【学校担当者】 担当者 問い合わせ先	名城大学 渉外部 広報課 小山 052-838-2006 kouhou@ccmails.meijo-u.ac.jp	
	南山大学 学長室 広報・募金課 李 052-832-3113 pr-gaku@nanzan-u.ac.jp	
	学校法人名古屋電気学園（愛知工業大学） 法人事務局 広報課 中條 0565-48-8177 d-koho@aitech.ac.jp	写 真 有・ <input type="checkbox"/> 無 図 面 有・ <input type="checkbox"/> 無 イラスト 有・ <input type="checkbox"/> 無



名城大学



南山大学

AIT 愛知工業大学

1 菱野団地のまちづくりについて

菱野団地は、黒川紀章氏の設計により整備され、入居から約50年が経過しており、急激な人口減少・少子高齢化などの多くの課題があります。

そこで、瀬戸市では、平成31年3月に、福祉・子育て・定住・交通・まちづくりなどの分野を横断した「菱野団地再生計画」を策定し、エリアマネジメント団体「未来の菱野団地をみんなで作る会（通称：みんなの会）」（地域住民による団体）や関係機関とともに菱野団地のまちづくりを進めています。

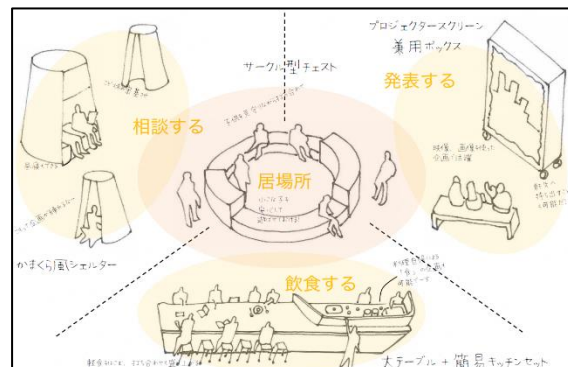


2 活動拠点の整備について

「みんなの会」の活動拠点を整備するため、令和2年度に、活動拠点の機能や役割・デザインなどを具体的に話し合う、住民ワークショップを開催しました。全3回のワークショップでは、谷田真（たにだまこと）准教授（名城大学工学部建築学科）がコーディネーターを務め、地域住民は、専門的なアドバイスを受けながら意見を出し合い、活動拠点の使用イメージを固めました。



ワークショップ（右奥：谷田真准教授）



活動拠点の使用イメージ



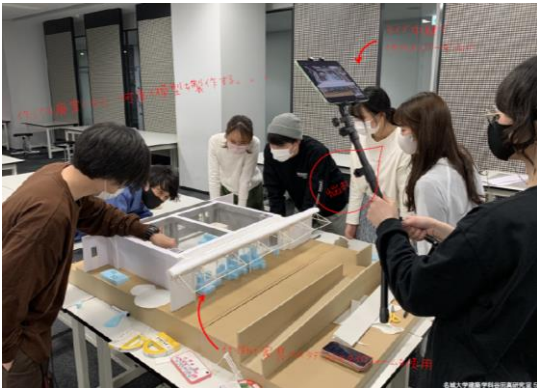
活動拠点となる空き店舗



店舗内部 (約 140 m²)

3 谷田真准教授と所属学生によるデザインコンセプト制作について

令和3年度は、昨年度のワークショップの結果をもとに、谷田真准教授と所属学生がデザインの制作を行うこととなりました。学生は、4月から拠点デザインの検討を開始し、Web会議を活用しながら何度も検討を重ね、7月に空間イメージのデザインコンセプトを完成しました。

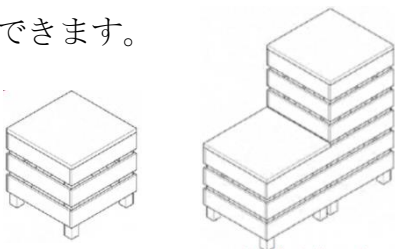


谷田真研究室学生による検討



デザインコンセプト模型

提案された「凹凸仕掛け家具」と呼ばれるキューブ型の家具は、組み合わせることで様々な用途に合わせた使い方を可能にするものです。(ベンチ、テーブル、本棚、遊び場、等) また、DIYで制作できます。



凹凸仕掛け家具(左:基本形、右:組み合わせ)



様々な組み合わせの例

4 名城大学、南山大学、愛知工業大学との連携について

凹凸仕掛け家具を用いた拠点づくりを進めるにあたり、

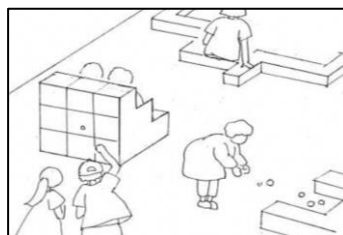
- ① まちづくりや建築を学ぶ学生の知見を取り入れ、効果的な活用方法を見出すこと
- ② 学生視点のアイデアを採用することで、若者への訴求力を高めること
- ③ 拠点整備のプロセスに携わる関係人口を増やすこと

の3点を主な目的として、菱野団地のまちづくり事業に関わる3大学の5つの研究室（以下のとおり）が参画し取り組むこととなりました。

大学・学部名	教授・研究室名	主な菱野団地との関わり
名城大学 理工学部 建築学科	たにだ まこと 谷田 真 准教授 研究室	前述②及び③のとおり
名城大学 理工学部 社会基盤 デザイン工学科	すずき あつし 鈴木 温 教授 研究室	「菱野団地再生計画推進 協議会」委員
南山大学 総合政策学部 総合政策学科	いしかわ よしふみ 石川 良文 教授 研究室	「菱野団地再生計画推進 協議会」委員
愛知工業大学 工学部 建築学科	のざわ ひでき 野澤 英希 准教授 研究室	「令和2年度 菱野団地空き家 活用方法提案事業」協力
	ますお こうすけ 益尾 孝祐 講師 研究室	

5 キックオフ会議について

令和3年8月7日（土）に「キックオフ会議」を開催し、学生達から13種類の創意工夫に富んだ「組み合わせのアイデア」のプレゼンテーションがありました。さらに、地域住民を交えて6つのチームに分かれ、アイデアをより具体的なものへブラッシュアップするためのグループワークを行いました。



学生によるプレゼンテーション資料の一部



学生によるプレゼンテーション



地域住民を交えてのグループワーク

6 アイデアを形にする「DIY」について

6つのチームは、キックオフ会議終了後も、会議アプリ「Slack」を用いて、約2か月間にわたりアイデアの検討を進めており、凹凸仕掛け家具約50個分の家具のプランが作られています。

これから、各チームのプランを、地域住民と学生が力を合わせてDIYによって制作します。その際、瀬戸市出身の起業家で、DIYで古民家を改修しゲストハウスを運営する「ゲストハウスますきち」の南慎太郎（みなみ しんたろう）氏がアドバイザーを務めます。制作日程等は下記のとおりです。

- DIY1回目 日時：令和3年10月9日（土）13時～16時
場所：菱野団地活動拠点（瀬戸市菱野台1丁目4）（以下同様）
- DIY2回目 日時：令和3年10月30日（土）13時～16時
- DIY3回目 日時：令和3年11月20日（土）13時～16時

※一般の方の参加は受け付けていません。

※新型コロナウイルス感染症の状況により変更する場合があります。



プランの一例（左から、遊べるテーブル、本棚兼掲示板、ダンチノベンチ）

7 エリアマネジメント団体「みんなの会」によるソフト的事業について

なお、活動拠点では、令和3年7月から、「みんなの会」の事業として、地域の子どもや高齢者の居場所づくりのため、「駄菓子屋」と「だべりば」（交流サロン）が運営されています。

DIYによる拠点のハード的整備と、「みんなの会」のソフト的事業とが並行して行われ、活動拠点を中心とした一体的なまちづくりが進められています。



駄菓子屋



だべりば